

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2013
平成25年

10.15

どんどん**食**べて
ぐんぐん**育**て!

目次	
「しみんの広場」	2
食育への取り組み	
今月の渥美半島の花	
地域の話題	
市民活動を応援するページ	
スクールレポート	6
学校生活の一コマを紹介	
たはらしティニュース	7
連載コーナー	8
おしらせ	10
歴史探訪クラブ	12



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 食育への取り組み紹介……………2ページ
- 今月の渥美半島の花……………3ページ
- 地域の話(神戸校区)……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

市民発! 「食べる」とは「生きる」と 食育つてなんだろう。

田原市では、平成20年度から「たはら食育推進計画」を推進してきました。

次の段階として、さらに食育を推進するため、「たはら食育推進計画2016」を策定し、市民一人ひとりが「食べる」に改めて興味を持ち、心も体も健全に生活できることを目指し、食育に取り組んでいます。

今回は、市民の皆さんの食育に関するさまざまな取り組みをご紹介します。

食育とは、食べ物を知り、心も体も健康でいられるように、考え、食べ物を選択する力を身に付けることです。



食生活改善推進員 親子料理教室

毎年、夏休みに小学生とその保護者を対象とした、食生活改善推進員による親子料理教室が開催されています。親子で楽しく料理ができると大盛況です。調理実習の前に、野菜の話や、朝ごはんの話聞き、食事の大切さを学びます。その後、調理実習を行うことで、料理するだけでなく、食べることの大切さについて考えながら調理、試食ができます。

【食生活改善推進員】地域の方が健康に暮らせるように、食育を推進し、食を通じた活動をするボランティア



ジュニア野菜ソムリエ 資格取得講座説明会

地元から農業への関心を高めるべく、野菜や果物の魅力を伝えるジュニア野菜ソムリエを育成するため、田原市で講座説明会を開催しました。今年度は、20名のジュニア野菜ソムリエを育成します。今後は、田原市の青果物の安全性やおいしさ、栄養価、調理方法などを皆さんにお伝えするために活動していただく予定です。



【野菜ソムリエ】野菜ソムリエは、日本野菜ソムリエ協会が認定する資格で、野菜や果物の知識を身に付け、そのおいしさや楽しさを理解し伝えるスペシャリスト

農村輝きネット・あつみ 加工品・料理コンテスト

農村輝きネット・あつみは、郷土料理の交流会や、農産加工研修などを通じ、独自の郷土料理の研究や伝播などを行っている団体です。田原市内の3高校で料理教室を行い、若者の食育にも力を入れています。また、平成21年から加工品・料理コンテストを行い、市民からレシピを募集し、田原の農産加工品を盛り上げていこうという取り組みが始まりました。今年も、12月16日(月)に開催されるコンテストのレシピを募集中です。詳しくは、お問い合わせください。

▶田原農業改良普及課 ☎22局0381



●農産加工研修



●コンテスト最優秀賞
ブロッコリーのキムチ(平成24年度)

B-1 グランプリ in 豊川

全国から64のまちおこし団体が集結し、ご当地グルメを通して、地域のPRを行うイベント「B-1 グランプリ in 豊川」が開催されます。

会場では、各出展団体によるご当地グルメの提供、郷土愛にあふれる「おもてなし」やパフォーマンスが繰り広げられます。また、来場者は、気に入った出展団体に割りばしで投票する楽しみもあります。

東三河で開催される「まちおこしの祭典」をお楽しみください。

▼開催日 11月9日・10日

▼時間 11月9日 午前9時30分～午後3時30分

▼場所 豊川稲荷周辺、豊川市野球場周辺 ▼アクセス 会場周辺には臨時駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。最寄り駅は、JR飯田線「豊川駅」、名鉄豊川線「豊川稲荷駅」です。



みんなで楽しむだリン☆



● イベント専用チケットについて

ご当地グルメを購入するには、イベント専用チケット「たべりんくうポン券」が必要です。

▼前売り販売期間 11月8日（金）まで ▼販売金額 1組1000円（100円×10枚） ▼内容 「たべりんくうポン券」は、11月9日（土）から12月1日（日）まで、協力店で金券として使用することもできます。（払い戻し、返金などはできません。また、おつりは出ません。来場時間によっては、ご希望の料理が購入できない場合があります。）

● 田原市内の販売窓口

- 田原市役所商工観光課
- 市内金融機関各支店（豊川信用金庫・蒲郡信用金庫・豊橋信用金庫）
- イオン田原店、サンクス各店

▼ 商工観光課

☎ 23局3522

▼ B-1 グランプリ in 豊川実行委員会

☎ (05333) 89局2262

🌐 <http://toyokawab-1grandprix.com/>

11月

今月の渥美半島の花～輪ギク～

輪ギク（切花／出荷時期：通年）

【花言葉】…真実、明朗、高尚

奈良時代に中国から渡来したキクは、日本で品種改良が進み、春のサクラと並んで日本を代表する花のひとつとなりました。皇室の紋章がキクとなったのは、キクが不老長寿の神秘的な力を持ち、高貴な姿と芳香を発して「百草王」と呼ばれ、大変貴重なものだったためです。田原市のキクは生育を電照によって調整するため「電照ギク」と呼ばれ、この電照風景は秋の夜長に情緒を添えるものとして、田原市の観光資源のひとつとなっています。年間約3億4千万本出荷されており、全国1位の生産量を誇っています。





▲神戸夏まつりでの盆踊り



▲地域のみんなが協力し合って祭り会場を準備

地域の話題

神戸校区

みんなで楽しく地域主体のまちづくり

地域主体のイベント「盆踊り」を、地域のみんなでもっと楽しめるよう、「夏まつり」に刷新して開催した神戸コミュニティ協議会からお便りが届きました。



「盆踊り」の復活

以前は、青年会や婦人会が主体で開催していた「盆踊り」。それぞれの団体の衰退により開催されなくなりました。しかし、地域で開催を望む声が聞かれるようになり、誰もが楽しめるイベントとして、平成19年に校区主体で復活させました。消防団OB、婦人会OGが協力し、やぐらで太鼓をたたき「神大鼓クラブ」がつくられ、老若男女、校区の誰もが参加するようになりました。

「神戸夏まつり」の開催

神戸市民館駐車場を会場として復活した盆踊りは、地域の盛り上がりとともに、平成23年は神戸小学校の運動場、平成24年は神戸運動公園と会場を変え、規模もだんだんと大きくなっていきました。そして今年、より多くの方に参加してもらえるよう、やぐらの周りの出店を増やし、子どもたちのステイジイベントなどを行う「神戸夏まつり」に刷新しました。



●祭りの最後は、恒例の菓子投げを行いました

神戸夏まつり当日、会場は、ステイジイベントを見たり、音楽と太鼓に合わせて踊ったりする家族連れなどでにぎわいました。涼しげなゆかた姿の人も多く見られ、夏の夜を思い思いに楽しんでいました。

神戸夏まつりを地域の皆さんが楽しめるように、そして、この祭りのために地元へ戻って来てもらえるように、今後も続けていきたいです。

ゆかた姿でにぎわう会場





市民活動を応援するページ



市民活動紹介

NPO法人 渥美半島まちづくり推進機構

～地域を元気に！ NPO 法人 With～



●設立総会の様子

広く地域社会の住民や企業、団体が連携して、田原市のまちづくりに取り組む中核的な組織として今年6月に設立しました。魅力ある地域の形成を図ることで地場産業を盛り上げ、また、各種情報発信を行うことで田原市の将来の発展に寄与することを目的としています。

まちづくりを中心に、観光振興、経済の活性化、情報の発信に取り組む、自らも行動する組織、地域プロジェクトを理念に行動しています。

9月8日（日）に行われた「トライアスロン伊良湖大会」では、運営をトライアスロン伊良湖実行委員会から受託しました。

当日の出場者919名（参加申込者1,000名）、観客数1万5,000名（実行委員会発表）の大会を、地元、福江高校の学生や一般ボランティアとの協働で行い、大成功を収めました。

皆さんも魅力ある渥美半島を一緒に盛り上げていきましょう。

●トライアスロン大会の準備作業



お問い合わせ

理事長 渡会一昭 ☎ 36局 6882 FAX 36局 4694 ✉ npo-with@tees.jp 🌐 <http://www.npo-with.jp/>

活動支援情報

市民活動支援センターの印刷機をご活用ください！（試験運用中）

市民活動支援の一環として、市民活動団体の皆さんにお使いいただける印刷機です。活動紹介や会員募集のチラシ印刷などにご利用いただけます。

- 試験運用期間 平成26年1月17日☎まで
- 設置場所 田原文化会館1階 フリースペース印刷室
- 印刷機能 紙原稿、データ原稿(USBメモリ)／白黒または赤黒2色
- 利用時間 市民活動支援センター開設日(毎週火・金・土曜日/午後2時～午後7時)
※文化会館休館日・その他市が指定する日を除く。
- 利用料金 試験運用中は無料(印刷用紙は利用者が用意/印刷枚数制限あり)
※試験運用における経費を基に、本運用の使用料を定めます。
- 利用登録 所定の申請書に会員名簿、規約などを添えて市民活動支援センターへ提出してください。
申請書は市および市民活動支援センターホームページからダウンロードできます。
※利用できるのは、次のいずれの要件も満たす団体です。
 - ・5人以上で構成されている団体
 - ・市内に活動拠点があり、主に市内で市民公益活動を行う団体
 - ・民主的な運営と適切な会計処理がなされている団体

※試験運用の消耗品が終了した場合、使用を中止することがあります。



田原市民活動支援センター

🌐 <http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

■NPOや市民活動に関する相談を受け付けています。(毎週☎・☎・☎ 14:00～19:00 田原文化会館フリースペース)

☑このページおよび市民活動支援センターホームページに掲載する市民活動情報を募集しています。

●お問い合わせ：☎22局 1111 (内線812) ※開設時間のみ FAX 23局 0180 ✉ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp



スクールレポート

SCHOOL REPORT 63

学校生活の
一コマを紹介

今回は、田原市を舞台に行われた「全国中学校軟式野球大会」を、裏方として支えた地元の中学生たちの様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局3679



全国中学校軟式野球大会を支えた中学生

「おもてなしの心」を込めて

全国中学校軟式野球大会が、田原市と豊橋市、蒲郡市を舞台に、8月17日から20日まで開催されました。田原市では、滝頭公園野球場で1回戦2試合、2回戦2試合が行われました。この大会を支えたのが、東部・田原・野田中学校の野球部とソフトボール部の生徒たちです。

受付係は、参加校の受け付けはもとより、大会要項や記念グッズの紹介、会場案内を協力し合いながら笑顔で絶やすことなく行いました。ボールボーイは、試合中の球審の動きをいつも注視し、ファウルボールを素早く処理したり、ボールの補給を行ったりしました。カウント担当は、球審のストライク、ボールの判定を的確に表示し、スムーズな進行ができました。

そして圧巻だったのが、グラウンド整備の生徒たちの動きです。試合開始前と4回の攻撃終了後、試合後に行われたグラウンド整備。決められた時間の4分以内に息を合わせてトンボを引き、整備を完了する姿は、真剣さと共に美しさを感じました。

田原市で行われた4試合は、随所にファインプレーが見られ、高い技術が発揮されたすばらしい大会でした。

本大会が引き締まった試合になったのも、「おもてなしの心」でがんばった地元の中学生たちの活躍があったからです。大会を支えた生徒たちの動きは、出場した選手たちに負けないくらいとも輝いていました。



●受付係は笑顔でおもてなし



●球審の判定を的確に表示



●ボールの行方を注視する生徒



●丁寧にダッグアウトを掃除する生徒たち



●お互いに息を合わせグラウンド整備を行う生徒たち



▲思い思いにフラワーアレンジメントを楽しむ参加者たち

9月3日(火)

花のまちで
花育を体験

日帰り花育バスツアーが豊橋田原広域農業推進会議の主催で行われました。JA愛知みなみママポートセンターで、菊が箱詰めされる様子を見学。サンテパルクたはらでは、渥美半島の花を使用したフラワールンジメント教室を楽しみました。



▲コンテストで入賞した皆さんが勢揃いしました

9月13日(金)

大きく育った
ぼくらのカボチャ

ジャンボカボチャコンテストがサンテパルクたはらで開催されました。市内15保育園や一般、4日クラブ員などが出品した121個のカボチャが会場に並び、重量を競いました。最優秀賞には、大久保綾人さんが出品したカボチャが選ばれました。



▲成章高等学校：東海吹奏楽コンクール高等学校A編成の部【銀賞】
赤羽根中学校：東海吹奏楽コンクール中学校B編成の部【金賞】

9月11日(水)

切磋琢磨が実り
教育文化奨励賞！

愛知県教育文化奨励賞を受賞した、成章高等学校吹奏学部と赤羽根中学校ブラスバンド部の生徒が市長を敬訪問しました。生徒たちは「先輩たちが積み上げた実績と、支えてくれた仲間や周りの皆さんのおかげです」と喜びを語りました。

広がる未来へ

たはらエコ・ガーデンシティ構想



●田原市臨海エリアに

新エネルギー施設が集積

田原市には、豊富な日射量や半島性の強い風の力を利用した二酸化炭素を排出しないクリーンな発電施設がたくさんあります。

その代表的な地域として、三河湾沿岸の臨海工業専用地域があげられます。平成25年9月末現在で、大型風力発電施設（風車）が13基（1980kW×2基、2000kW×11基）稼動しています。ここでは、一般家庭約1万5200世帯分の電気が作られています。

これに加えて、現在、新たな施設の建設も進められています。平成26年6月には、2000kWの風車が3基、同年10月には、5万kWの太陽光発電施設（メガソーラー）と2000kWの風車3基の稼動が予定されており、平成27年4月には81万kWのメガソーラーが稼動する予定です。さらに、平成28年6月には1万5000kWのメガソーラーの稼動も予定されています。



●建設中のメガソーラー

これらの施設全てが稼動すると、一般家庭約6万7100世帯分の電気が作られます。田原市の世帯数が約2万2000世帯ですので、この臨海エリアだけで田原市の全世帯で使う電力の3倍強が作られることになり、日本有数の新エネルギー施設集積地となります。

今後も、田原市では新エネルギー施設の導入促進を積極的に図っていきます。

●たはらエコチャレンジ宣言登録者数
個人279人・事業所88カ所（8月末現在）

▼エコエネ推進課

☎23局7401 FAX23局0180

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/>

環境戦隊たはらエコレンジャー

環境けいじばん 17

ゴミゴモンとリサイクルレンジャー

紙類・布類は収集された後、資源として再生利用が可能です。今回は、これらのごみがどの様にリサイクルされるかを紹介します。

紙類
古紙の種類によって、再生される用途が異なります。4種類に分けて出してください。



●紙類として出せないもの
においや汚れがついているもの、酒パックなどの裏が銀色のもの、クリップや粘着テープなどの異物、ビニールコート紙など

●布類として出せないもの
衣類や薄手の布類は主にウエス（工場などで使用される雑巾）やぬいぐるみ・座布団などの詰め物に再生されます。

※紙類・布類は濡れるとリサイクルができません。雨の日にはステーションに出さないようお願いします。

現在、多くの紙類・布類がもやせごみとして出されていますが、資源ごみとして分別する事でごみの減量につながります。ご協力をお願いします。

▼清掃管理課

☎23局3538 FAX23局0180

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/>

ジョージタウン大学 推薦入学者への奨学金・助成金制度

姉妹都市・米国ケンタッキー州ジョージタウン市にある私立ジョージタウン大学に、田原市の推薦で入学する方への奨学金と助成制度をご紹介します。



▲ジョージタウン大学

◆推薦入学の出願資格

●次の条件をすべて満たす方

- ①田原市在住または在学(市内高校を卒業した方を含む)の方
- ②TOEFLのスコアがペーパーテストで520点以上、コンピューターテストで190点以上、または、インターネットテストで68点以上を満たす方
- ③大学卒業(4年間)まで在学でき、入学時の年齢が18～24歳の方(短期留学は対象外)



◆奨学金と助成金の内容

●ジョージタウン大学による奨学金(2万ドル)

年間5千ドル、在学中の4年間で合計2万ドルがジョージタウン大学から支払われ、授業料の一部に充

当されます。 ※2万ドル=198万円(1ドル99円で換算時)

●田原市による入学助成金(18万円)

入学時に1回のみ、18万円が田原市から支払われます。 ※ジョージタウン大学奨学金の受給者が対象

◆定員

●1年に2名以内

◆申し込み期限

●毎年12月15日(今年度は12月13日)

※詳しくは市ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

▶広報秘書課 ☎ 22局0138

🏠 <http://www.city.tahara.aichi.jp/>

白 主防災会が主催する防災訓練が、11月9日(土)に市内の各集会所などで一斉に実施されます。この訓練は、地域の実情に合わせて、地域ぐるみで行われるものです。

◆自主防災会とは
近所・地域の人が協力し合い、「みんなの地域はみんなを守る」という地域の防災活動を効果的に行うための自主的な防災組織です。今回の訓練も、災害に強い地域づくりを目的に毎年実施されています。

◆協力し合って被害を最小限に
個人や家族で、いざというときへの備えをしておくことは重要ですが、それだけでは限界があります。自主防災会や地区・校区の皆さんが協力して行動することで、すぐに安否確認・避難誘導・救出活動を行えるなど、被害を最小限にとどめることができます。皆さんも訓練に参加して、自分の役割や自分のとるべき行動などを確認しましょう。



防災知恵袋

30



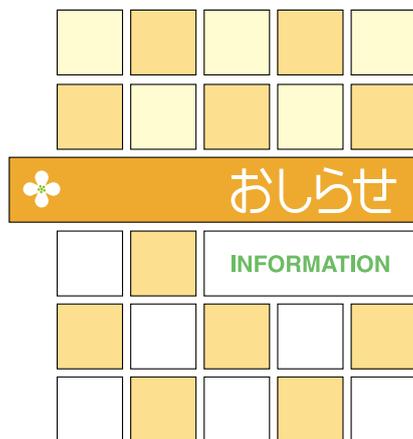
みんなで取り組む防災・減災

自主防災会の一斉防災訓練に参加しよう

🏠 <http://www.city.tahara.aichi.jp/>
▼防災対策課 ☎ 23局3548



田原市自主防災会 斉防災訓練
▼日時 11月9日(土) 午前7時～9時ごろ
※地区によって終了時間が異なります。
▼訓練開始 当日の午前7時、防災行政無線から、訓練開始の放送が流れます。
▼避難方法 放送が流れたら、非常持出袋を持って各地区の集合場所に徒歩で避難しましょう。安否確認後は、各地区それぞれの訓練に参加しましょう。



募集

WANTED

田原市立小・中学校 常勤・非常勤講師

▼応募資格 ①次の要件をいずれも満たす方 ②子どもが好きで学校教育に熱心に取り組むことができる方 ③教員免許所持者（採用時に取得見込みの方も可） ▼受付期間 ①随時（市役所執務時間中） ▼申し込み ①市販の履歴書に顔写真を貼り、必要事項を記入のうえ直接または郵送にて ▼学校教育課



〒441-3492 住所不要
☎23局3679 FAX22局3811

消防設備士 試験

▼対象 ①一般 ▼試験日 ①12月22日（日） ▼場所 ①名古屋市長城大学天白キャンパス内 ▼種類 ①甲種特類を含む甲種全類・乙種全類

▼申し込み ①書面申請・11月11日（月）～20日（水）の期間に消防課窓口または消防署・各分署にある受験願書に必要事項を記入のうえ郵送 ②電子申請 ①11月8日（金）午前9時～17日（日）午後5時の期間に財団法人消防試験研究センターホームページ（<http://www.shoubo-shiken.or.jp/>）にて ▼消防課 ☎23局4074

東三河人にやさしい街づくり講座・セミナー

▼日時 ①11月30日（土）【セミナー】午前9時30分～午後1時50分【講座】午後2時～4時30分まで ▼場所 ①田原福祉センター3階大会議室 ▼内容 【セミナー】出かけたくなる街in田原 ①車椅子や高齢者疑似体験セットを使い、三河田原駅周辺のタウンウォッチングを行い、街のバリアとは何かを体験しグループで検証（雨天の場合は施設のバリアチェック）【講

座】だれもが出かけやすい街in田原 ①駅周辺のタウンウォッチングの検証内容の発表および、だれもが出かけやすい街にするにはどうすればよいかをテーマとした講演 ▼定員 ①50名（講座のみの受講も可能） ▼受講料 ①無料（昼食代は実費） ▼申し込み ①電話、FAXまたはEメールにて（FAX、Eメールの場合は住所・氏名・年齢・電話番号を明記） ▼建築課

☎23局3526 FAX22局3811
✉kenriku@city.tahara.aich.jp

生活

LIFE

情報センターメディア研修室を自習室として開放します

情報センターメディア研修室を自習室として試行開放していますのでぜひご利用ください。

▼対象 ①中学生以上 ▼日時 ①12月27日（金）までの午前9時～午後5時 ※休館日 ①月曜日（祝日の場合は翌平日）およびパソコン教室開催日は除く ▼場所 ①情報センターメ



メディア研修室（田原文化会館2階）

▼情報センター

☎22局7200 FAX23局2808
✉jyosys@city.tahara.aich.jp

特別障害者手当などの制度が一部改正

次の表のとおり、10月分からの各手当の支給額が改正されました。

区分	月額	
	9月分まで	10月分～
1種	50,400円	50,050円
2種	33,570円	33,330円

区分	月額	
	9月分まで	10月分～
A種	33,110円	32,930円
B種	27,310円	27,130円
C種	26,260円	26,080円

区分	月額	
	9月分まで	10月分～
A種	21,180円	21,080円
B種	15,430円	15,330円
C種	14,280円	14,180円



▼地域福祉課
☎23局3697 FAX23局3545

夜間離着陸訓練を実施

愛知県防災航空隊ヘリコプターと消防署との合同による夜間離着陸訓練を行います。



訓練中は騒音が発生します。また、訓練会場への立入り制限を行います。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

▼日時 11月8日(金) 午後3時～7時ごろ
▼場所 白谷海浜公園周辺
▼その他 雨天・荒天の場合は、訓練を中止します。

▼消防署
☎23局4075 FAX23局2440

自転車の駐車マナーを守りましょう

11月は放置自転車グリーンキャンペーン月間です

通勤や通学などの足として欠かせない「自転車」。他の交通機関への乗換時には所定の駐輪場をご利用いた



だくとともに、駐車したまま長期間放置することのないようお願いいたします。キャンペーン期間中、駅周辺などの放置自転車の整理を実施します。放置自転車減少に、ご理解とご協力をお願いします。

▼市民協働課
☎23局3504 FAX23局0180

ご注意ください
ガソリンは適正にご利用を

平成25年8月15日、京都府福知山市の花火大会の会場で、ガソリンの携行缶による火災が発生し、多数の死傷者を出す事故がありました。同様の事故を起こさないためにも、今一度、家庭に保管してあるガソリンの貯蔵・取り扱い管理の確認を行ってください。

※ガソリンは気温がマイナス40℃でも気化し、小さな火源でも引火し、爆発的に燃焼する物質です。取り扱いには十分注意が必要です。

ガソリン取り扱いの注意点

- ・ガソリンは、静電気を蓄積しやすく、放電した静電火花で引火するため、消防法による容器性能試験に合格した金属製容器を使用すること。
- ・取り扱いの際には、開口前の圧力

調整弁の操作など、取扱説明書などに書かれた容器の操作方法に従い、「漏れ、あふれ」などないよう細心の注意を払うこと。

- ・機械などへの注油の際は機械の運転を確実に止めること。
- ・周りに燃えやすいものを置かないこと。

ガソリン容器の保管は、熱源を避け、直射日光の当たらない換気の良い場所とすること。

ガソリンの蒸気をみだりに発生させないようにするとともに点火源となるものとの接近を避けること。

▼消防課
☎23局4074 FAX23局0180

「愛腎協カード・バッジ」をご存知ですか

愛知県腎臓病協議会(愛腎協)は、災害時や平時の救急活動に、透析患者と一般の方と見分けができるよう、会員の方に専用のカード(会員証)とバッジを発行しました。

緊急時、専用のカードやバッジで透析患者であること



▲愛腎協カード

▲バッジ

とが確認できた場合は、情報提供などの対応をお願いします。

▼一般社団法人 愛知県腎臓病協議会
☎(052)682局0206

11月は子ども・若者育成支援
県民運動強調月間です

育てよう 自分に勝てる子 負けない子 不登校やひきこもり、ニートなど社会生活を送ることが困難な子ども・若者の問題を解決するには、単一の機関だけではなく、さまざまな機関や人々がネットワークを形成し、それぞれの専門性を生かしてその人にあつた支援を行っていくことが必要です。このため愛知県では、11月を「子ども・若者育成支援県民運動強調月間」と定め、子ども・若者育成支援のため、さまざまな事業を実施します。

▼生涯学習課 ☎23局3531



寄付

次の方からご寄付をいただきました。ご厚意に感謝します。

▼8月29日、鈴木福三様から赤羽根小学校の教育振興のため、児童用書籍53冊。



歴史探訪

クラブ!

其の
151

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局3635
FAX 22局3811

懐かしい稲のはざかけ

すっかり秋の風がさわやかな季節になりました。やはり「食欲の秋」。秋のおいしい味覚とお米のご飯。今年取れたみずみずしい新米のご飯が待ち遠しいです。

さて、近ごろなくなった風景に、稲刈り、脱穀があります。この地域だと、夏休みの終わりから9月の初めに稲刈りが行われます。

私が子どものころ、夏の終わりの思い出といえば、ため込んだ宿題と稲刈りです。かつては、家族総出で田んぼ



に向かい稲刈りをしました。一帯で一斉に行われますので、田んぼのにぎやかなこと。そのころ、稲は鉄鎌で刈っていました。子ども

たちは家族に刈

り方のこつを

教えてもら

いますが、

なかなか

うまくで

きません。

また、田ん

ぼにいたるカエル

やら虫などが気

になって仕方ありません。

そして、よそごとを始めてしまい、

お手伝いにならないことも。けれど、

今思えば、家族がそこに集うことが

大事だったのかもしれない。

やがて、稲刈り機が登場し、作業

は格段に効率よく進みます。子ども

は束になった稲を集める役です。夏の

終わりとはいえず、まだまだ暑く、汗

にまみれてしまいます。稲の株や柔ら

かい地に足を取られ疲れも増します。

そして昼休みに水風呂に入ります。

そのころ、稲を乾かすための「はざ」

が作られます。昔は広い田んぼの稲

を干すので、はざも立派です。はざ用の丸太は長屋の軒先に大事に保管されていました。二段の高さにもなると、男手のはざに乗り、集められた稲束を下から投げてもらいかけていきます。夫婦で息の合った作業は手際よいです。

脱穀は、家に運ばず田んぼで行う場合もあります。脱穀後の稲藁は、生活に必要なものすべてをまかなえるほど大事な材料で、時代が新しくなると、脱穀まで一気にいう機械が出てきます。現在では、粉碎され、そのまま田んぼに置かれる場合が多いです。

かつて稲の成長と、携わる人たちのかわりによって、季節の移り変わりを感じていました。それだけにお米のおいしさ、ありがたさを感じていたかもしれません。刈り取った稲穂のずっしりとした重さ。そこに幸せを感じ



▲はざかけされている稲(奥)と機械で粉碎されたわら(手前)

られました。現在では、大型の機械で一気に行うため、田んぼに人々の姿を見ることはなく、機械とそれを運ぶ車があるだけです。

このころでは、稲のはざかけはめったに見ることはありません。あつたとしても小さな区画や、山間の田んぼです。きっとその田んぼの人は稲を太陽と秋のさわやかな空気で乾燥させ、古代以来の手間をかけて「白米」にするのでしよう。

昔と今は違います。稲刈りも人間の工夫で省力化、さまざまな工夫がなされています。でも、ふと昔ながらの方法や大切さを思い出して見るのもしいかもありません。(増山)

今月の「表紙」

▼日本一の農業産出額を誇る田原市には、野菜をはじめ、おいしい食べ物がたくさんあります。その利点を生かして、今年の田原市は、「6次産業化」や「野菜ソムリエ」に関する事業が予定されており、どちらも地域の「宝」を生かすもの。子どもたちには、地元の安心安全な食材を味わいながら、すくすく元気に育ってもらいたいですね。(M)

【表紙の写真】楽しい給食の時間(神戸小学校)